〈エッセイ〉

写真：小川真輝、執筆：大野友資
構成：服部円、飯沢未央

展覧会場構成・大野友資が千思万考した「ゴミうんち展」の世界

もつれについて

Figure 1. 21_21 DESIGN SIGHT 企画展「ゴミうんち展」会場写真。

2024 年 9 月から 21_21 DESIGN SIGHT にて企画展「ゴミうんち展」が絶賛開催中だ。身の回りから宇宙までの様々な「ゴミうんち」を取り上げている当展示は、世界の循環に向き合う実験の場として、多様な問いとイマジネーションを私たちに投げかけている。そんな展覧会から思考される世界の因果やもつれについて、会場構成を担当した建築家・大野友資氏（DOMINO ARCHITECTS）がエッセイを綴った。

もつれについて

寺田寅彦は『藤の実』の中で、ある夜にしめし合わせたように一斉に藤の実がはじける様子を観察しながら、この世界における「潮時」とでもいうべき様々な現象に思考を巡らせている。銀杏の葉が何かのスイッチを切ったみたいに突然同じタイミングで落葉を始めたり、四五月に全国各所でほとんど同時に山火事が発生することがあったり、身内に怪我や不運が相次いで降り掛かったり。科学的に立派に「説明」がつかないことであっても、その背後にはまだ知られていない因果が潜んでいるのかもしれないと。

物事の因果関係、そのほとんどは目に見えない。それでもこの世界では、足元から宇宙まで、あらゆるものがあらゆるものと関係し合っていて、否応なく繋がってしまっている。ゴミうんち展には、その森羅万象／一切合切の背後にある因果に向き合うことに対する、恐ろしさと面白さとのもつれが詰まっている。ゴミは捨てれば、うんちは流せば見えなくなる。無関心、盲点、見て見ぬふりといった様々な背景からこの世界のミッシングリンクになっているゴミうんち。それが埋まると、これまで見えていなかった連鎖や循環、交換といった不断の系が見えてくる。自分と環境、始まりと終わり、常と無常。そういったものの境目が揺らぐことで、自分の興味や関心、責任感の届く範囲が浮かび上がってくる。

工事が進んでいる仙台の友人邸の庭先では、ハクビシンの垂れた糞から生えた枇杷の木が膝丈まで伸びていた。

大野友資（おおの・ゆうすけ）
DOMINO ARCHITECTS 代表／ FICCIONES 所属／東京藝術大学非常勤講師／一級建築士
1983年ドイツ生まれ。東京大学工学部建築学科卒業、東京大学大学院修士課程修了。カヒーリョ・ダ・グラサ・アルキテットス（リスボン）、ノイズ（東京／台北）を経て 2016 年独立。2011 年より東京藝術大学非常勤講師、2023 年より東京理科大学非常勤講師を兼任。
https://dominoarchitects.com/

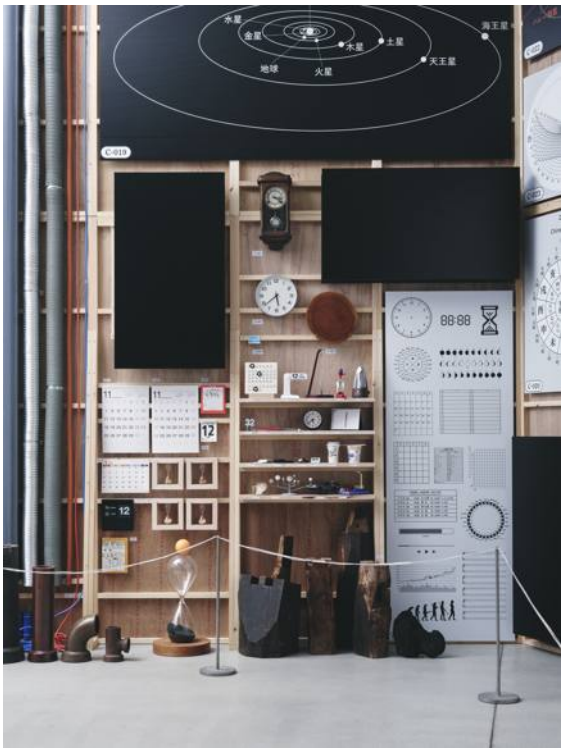

Figure 2. 21_21 DESIGN SIGHT 企画展「ゴミうんち展」「糞驚異の部屋」展示風景。

『文化と生物学』編集部は今回、「糞驚異の部屋」協力として参加。「糞驚異の部屋」には身近なものから宇宙までを見渡した膨大な数の「ゴミうんち」にまつわるものが展示されているが、展示品のいくつかを研究者の方や研究機関にお声がけし、収集している。

以下、協力頂いた研究者、研究機関と手配した展示品となる。

世界 12 種類の土 (国立研究開発法人森林研究・整備機構森林総合研究所 藤井一至先生) ／貝や石、Shell Shape Generator の画像 (大阪大学 近藤滋先生) ／海ゴミ (京都大学 伊勢武史先生) ／実験ででたゴミ (早稲田大学 岩崎秀雄先生) ／フンコロガシの糞玉 (ならまち糞虫館) ／竜涎香 (太地町立くじらの博物館)、ヤクシマザルとヤクシカの糞 (京都大学野生動物研究センター)

21_21 DESIGN SIGHT 企画展「ゴミうんち展」

会期：2024 年 9 月 27 日〜2025 年 2 月 16 日

会場：21_21 DESIGN SIGHT ギャラリー 1&2

住所：東京都港区赤坂 9-7-6 東京ミッドタウン ミッドタウン・ガーデン

電話番号：03-3475-2121

開館時間：10：00〜19：00

※入場は閉館の 30 分前まで

休館日：火（ただし、2 月 11 日は開館）、年末年始（12 月 27 日〜1 月 3 日）

料金：一般 1400 円 / 大学生 800 円 / 高校生 500 円 / 中学生以下無料

https://www.2121designsight.jp/program/poopoop/